

AMH レベルは体外受精の最終的な治療結果を予測するか？

中山奈央子, 井上朋子, 高森美穂, 寺脇奈緒子, 河邊麗美, 浅井淑子, 姫野隆雄, 森本義晴
HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

AMH は卵巣予備能・卵巣刺激に対する反応性の指標として有用であり、近年臨床的に広く用いられている。一方、患者はこの検査で自身の卵巣予備能を知る。特に、低レベルだと知った 20～30 代の患者は大きな精神的ショックを受けることも少なくない。しかし、患者にとっては最終的に妊娠・出産できるかどうか重要である。治療前の AMH レベルと AMH 測定後 1.5～3 年の期間における治療結果との関連を調べた。

【対象と方法】

2015 年 1 月～2016 年 6 月に初診時に AMH を測定し、体外受精治療を受けた患者 449 名を対象とし、2017 年 12 月までに臨床的妊娠に至ったかどうかを調べた。年齢 (39 歳以下、40 歳以上) と AMH レベル (<0.10、0.10～0.99、1.0～1.99、2.0～2.99、3.0～3.99、4.0～4.99、 ≥ 5.0 ng/mL) により分類し、胚移植を実施した 393 名における胚移植実施率と臨床的妊娠率を検討した。

【結果】

AMH 0.1 ng/mL 未満の胚移植実施率は 0.1 ng/mL 以上の実施率に比べて有意に低値を示した (39 歳以下 : 58.3% vs. 94.2%, $P < 0.01$ 、40 歳以上 : 47.8% vs. 91.8%, $P < 0.01$)。39 歳以下では AMH レベルに関わらず約 6 割以上が胚移植のち妊娠に至った。同じ AMH レベルでは 39 歳以下の臨床的妊娠率は 40 歳以上の妊娠率に比べて高い傾向を示した。

【考察】

患者背景や不妊原因・治療方針は異なるが、39 歳以下の患者においては、適切な治療により胚移植を行うことができれば AMH レベルは臨床的妊娠率に影響しないことが示唆された。AMH レベルは胚移植が実施できるかどうかに関わるものの、最終的に臨床的妊娠に至るかどうかは AMH レベルよりも年齢因子の関与が大きいことが示唆された。